

植調協会だより

◎ 人事異動

平成 27 年 2 月 1 日付

命 事務局技術部技術第二課係長 三浦 誠

命 研究所試験研究部第二研究室長 筒井 芳郎

訂正

先月号(48巻10号)の21頁 下中央写真の説明に誤りがありました。

以下の修正をお願いすると同時に、関係の方々に慎んでお詫び申し上げます。

誤	正
山下静間	→山下純一
福島県農業総合センター(副所長)→鹿児島県農業開発総合センター(副所長)	
(編集部)	

「話のたねのテーブル」より

小さな観察 不定芽から伸びるヒメジョオン

岩瀬 徹

ヒメジョオンの発芽の時期は幅が広く、秋もあれば春もある。したがっていつ観察しても生えているロゼットの大きさはまちまちである。ロゼットがある程度の大きさになって越冬しないと、翌春に茎が立って開花に至らないようだ。越冬したロゼットが夏を越えて(夏枯れるものもあるが)くると、ときどき直径20cmを超えるような大きなものになる。このようなヒメジョオンはしばしば秋咲きになる。

2013年の秋、この巨大ロゼットから茎が立ち、根ぎわから数本枝分かれしてたくさんの花を咲かせ、花は霜が降りるころまで続いた。冬は茎が枯れたまま立っていたが、2014年2月に大雪が降ってしばらく雪の下にかくれていた。

雪が消えたあと2月下旬に見ると、折れた枯れ茎の根ぎわのほうから芽が数個出はじめていた。この芽(不定芽)はだんだん大きくなり、5月中旬には花をつけた。もちろんロゼット葉はない。発芽から1年半は越えていると思われる。

こんな長命なヒメジョオンのそばには、3月に発芽したロゼットから茎が立ち5月に開花した株がある。これは短命な1年草のタイプである。雑草の生活史は可変性があるといわれるが、ヒメジョオンも1~2年草(越年草とは別の意味の2年草)という表現は捨てられない。もしかして、短命な多年草という言葉に拡大すべきかどうか検討が必要かもしれない。

(話のたねのテーブル No.230 より)



▲枯れた葉の間から不定芽が現れた



▲不定芽が成長しはじめた



▲茎が成長し花をつけた



▲花序

公益財団法人日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 (03) 3832-4188 (代)

FAX (03) 3833-1807

<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 理事長 小川 奎

発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (03) 3833-1821 (代)

FAX (03) 3833-1665

平成 27 年 2 月発行定価 540 円 (本体 500 円 + 消費税 40 円)

植調第 48 巻第 11 号

(送料 280 円)

印刷所 (株)ネットワン